

るんるん

(ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成26年9月1日 第38号

園長のつぶやき

平成26年度が始まり、はや5ヶ月が過ぎ去りました。近年、ルンビニ園の環境はずいぶん変わってまいりました。ここは、もともと靈眼寺という曹洞宗の尼寺であったのですが、児童養護施設に生まれ変わり67年の歳月をかけて今は、無憂華ホーム、ラゴラホーム、白蓮華ホーム、スジャータホームと大きく四つの棟に分かれ、子どもたちの生活の場となっております。また、古くからの姿をとどめた生活様式と、最近新築した新しい生活様式とが混在しています。そのような中で、子どもたちも職員も日々葛藤の毎日をご過ごし、その証拠に施設内は傷だらけです。私たち大人は、園の子ども達に何を伝えていかなければならないのか、じっくりと向き合っていきたいと考えております。

話は変わりますが、世界一長生きと言われたトーマス・パー（152歳：ウイスキーのオールド・パーのネームになっている）に時の王様が長生きの秘訣を聞いたところ、三つのことを言われたそうです。一つ目は「確かな信仰を持つこと」、二つ目は「くよくよせず、サラサラと」、三つ目は「何事もほどほどに」をモットーに暮らすこととなのだと語られたということです。

私たちも、このような人生を過ごしていけるように、また、子どもたちにも伝えていくことができれば幸せだと思っております。

花祭り

～ お釈迦様の生誕と仏教のはじまり ～



5月8日、恒田理事長の導師のもと、子どもたちと職員の読経が本堂（集会室）に響きました。本来は4月8日が花祭りの日ですが、ルンビニ園は一カ月遅れです。

お生まれし姿のお釈迦様の像に、一人一人の手で甘茶がかけられて、お釈迦様の誕生をお祝いしました。

約2600年前に、インドのルンビニ（現在はネパール）でお釈迦さまがお生まれになりました。お釈迦様は「老病死」の苦しみを経てお悟りを得、仏教が誕生しました。その後の仏教の歩みが、今日の日本仏教やお寺へと発展しました。このルンビニ園も霊眼寺を基に開設されましたが、もしも、お釈迦さまがお生まれにならなかつたら、今の私たちは無かったのかもしれない。有り難いことです。

田植え体験

「きもちわる〜い！でもきもちいい！」



— 今回は古代米が植えられました — 収穫は10月下旬とのことです —

代かきの終わった田んぼに、足を入れたり出したりしている子ども達。クリーム状の泥田に「きもちわるい」と、声をあげる子どもたちの声。田んぼの感触になかなか馴染めないようです。

富山ライオンズクラブ（五十嵐会長）さん並びに株式会社タイワ精機（高井会長）さんのお計らいにより6月7日、タイワ精機試験田においてルンビニ園の子どもたち約20名の田植え体験が行われました。ライオンズクラブの皆さんやタイワ精機の皆さんから田植えのコツを教えていただき、ぎこちないながらも一生懸命に植えている

姿が印象的でした。田植えが終了し、泥んこの足を洗いながら「気持ちよかった」の声が大きく弾んでいました。

田植え終了後、タイワ精機の職員の方より、有機農法についての説明がありました。特に、有機農法によって一億年以上も前から生息していた「カイエビ」が田んぼに戻ってきたことを聞き、自然を守る農法の大切さを教わりました。

ケンユースタッフコンサート

リアリング・ワークス代表のケンユースタッフ（KENYU）さんがオーバージーンの方々とともに6月21日、当ルンビニ園に訪れていただき楽しいひと時のコンサートを開いていただきました。

ケンユースタッフさんの持ち歌、「ありがとう」や「ぼくらの星」、「森へおいでよ」などのシンセサイザー弾き語りの他、楽しいトークで会場を盛り上げて下さいました。また、オーバージーンの方々の「サザエさん」に仮装した板倉未来さんが子どもたちの中に交わり、子どもたちとの親交を深めて下さいました。

ケンユースタッフさん、板倉さん、ありがとうございました。



左から2番目がケンユースタッフさん 右から2番目が板倉未来さん

大山町・大沢野町赤十字奉仕団による除草奉仕

今年も大山町赤十字奉仕団並びに大沢野町赤十字奉仕団による、ルンビニ園敷地内の除草奉仕活動が行われました。

大山町赤十字奉仕団の皆さまは7月9日、大沢野町赤十字奉仕団の皆さんは同月14日、いずれも団員約20名で草刈機や手作業により除草活動が行われました。ルンビニ園の正面やグラウンドの雑草がきれいに刈り取られ、とてもすっきりした環境になりました。

7月に入り、30度を超す猛暑の中で、献身的な除草活動に頭が下がりました。有難うございました。

‘みたま祭りで祖先に感謝’

“子どもたちと職員が協働で納涼祭”

暦の上では立秋となった8月7日、恒例の“みたま祭り”と“ルンビニ園納涼祭”が体育館において執り行われました。当日は気温30度を超える暑い夏日となりましたが、子どもたちは元気に暑さを納めておりました。

“みたま祭り”は、恒田理事長先生のご挨拶に始まり、先生から「祖先への慈しみを忘れることのないように」と、私たちに諭されました。次に園長と園児代表がお線香をたむけ、園児と職員が理事長先生とともに合掌し終了しました。

引き続き“納涼祭”に移り、園長挨拶の後、お祭りは約2時間にわたって楽しめました。“輪投げ”や“飴とりゲーム”など、多彩な模擬露天が設けられ、それぞれの露天に子どもたちや職員の歓声がこだましておりました。昔懐かしい“射的”では、なかなか的に当たらずに悔しい思いをしている職員をしり目に、ポンポンと当てていく子ども達、見ている周りの人達も力が入ります。また、“金魚すくい”や“ストラックアウトゲーム”に飛び入り参加された小学校の先生、思い通りにならず“やきもきしている姿”が、とてもほほえましく見えました。その他、子どもたちは、“くじ引き”の景品や“焼きそば”など、獲得した袋いっぱいのおみやげを自慢げに抱えておりました。

愉快で楽しかった納涼祭は、児童代表“大友児童会長”の「閉会あいさつ」で今年も無事にお開きとなりました。児童のみなさん！先生方！お疲れさま!!



幼稚園児が“くじ引き”に挑戦しています

頑張った就業体験

— ポンポコ村でお年寄りとのふれあい —

介護老人福祉施設を営んでおられる「株式会社ほっとはーと（ぽんぽこ村）」の飴谷社長様ご夫妻のご配慮によりこの夏休み、ルンビニ園中高生の就業体験が行われました。“ぽんぽこ村”は、介護老人福祉事業としてデイサービス、ショートステイ等の介護サービスを行っておられます。この介護サービスを体験させていただくために、男女中高生の子どもたち12名を受け入れて下さいました。

高校が休みに入った7月22日から8月27日まで受け入れて下さいましたが、この間、“ぽんぽこ村”より午前8時半に迎えに来ていただき、午後3時半に送り届けて下さいました。送迎付きの体験学習に頭の下がる思いでいっぱいです。

子どもたちは、“ぽんぽこ村”でのお年寄りとのふれあい体験がいかにも有意義なものとなったのか、ほぼ毎日参加する高校生もいました。飴谷社長ご夫妻をはじめ、職員の方々が本当に有難うございました。

魚津市一日里親会 「楽しかった！」

台風の影響であいにくの雨となった8月9・10日の両日、ルンビニ園の子ども達18名が「第44回の魚津市一日里親会」に参加しました。9日の受入式では、ルンビニ園児の合唱に始まり、林会長様のご挨拶、魚津市長様のご祝辞、ルンビニ園園長の謝辞の後、子どもたちが里親様と対面しそれぞれのご家庭に向かって行きました。

翌日、帰園した子どもたちから、「楽しかった」との言葉があり、職員もとても幸せになりました。ご家族様との楽しい思い出は、今年も大きな1ページとなりました。里親の方々が、関係機関の方々が、本当に有難うございました。

ピアノ発表会

” 鍵盤に向かい真剣なまなざしが素敵!! ”

第27回白百合音楽教室ピアノ発表会が8月24日、富山市民プラザアンサンブルホールにおいて開催され、当ルンビニ園の小中学生児童6名が参加し、練習の成果を発表しました。発表会は、約5時間にわたって行われましたが、ピアノ演奏のほか「声楽」「男女対抗リレー連弾」「全員による合唱」「連弾アンサンブル」など、多彩な発表会となりました。

参加した当ルンビニ園の児童も、それぞれに与えられたピアノ曲（①ワンノートサンバ②きらきら星③愛のあいさつ④木星「惑星」⑤スペインのジプシーたち⑥闘牛士の祈り⑦スターダスト⑧いつか王子様が）を演奏し、聴衆を魅了しました。また、中

学 1 年生の男子による声楽（①空を歩いて「スノーマン」②浜辺の歌）も発表され、どちらも子どもたちの真剣な姿に感動しました。

子どもたちを導いて下さった大石先生、本当に有難うございました。



発表者全員による合唱（サウンドオブミュージック他）

VOXRAY（ヴォクスレイ）来園

2014 立山山麓音楽祭が 8 月 23 日、立山山麓スキー場らいちょうバレーエリアで開催されました。この日、音楽祭でオープニングアクトを努められた VOXREY（ヴォクスレイ）の皆さんが当ルンビニ園を訪問し、子どもたちや職員との交流を図りました。VOXREY は、4 人のボーカルグループアーティストとして全国で活躍しています。今回は、多忙な中をかけつけてくださり、ルンビニ園の子ども達に素晴らしいハーモニー（アカペラ）とトークを提供くださいました。VOXRAY の歌唱力は、私たちの心を大きく揺さぶりました。不思議なくらい涙しました。VOXRAY の皆さん、とても素敵なひとときを有難うございました。私たちも、応援しています。



左端から BoB（渡井隆行さん）、Muzzi（鈴木理さん）、Tommy（清永大心さん）、Zi - Zi（椎野財昌さん）

感謝～心より有難うございます～

ルンビニ園の維持運営経費は、社会的養護の名のもとに措置制度が適用され、公の措置費を収入として賄われております。しかし、当ルンビニ園は、措置費以外にも沢山の皆さまより貴重な浄財をいただいております。さらには、お米やお菓子のほか、生活必需品等の寄附物品につきましても、多くの皆さまにより支えていただいております。お陰さまで、衣食住は、子どもたちに不自由な思いをさせることのない日々を過ごしております。

感謝の思いは、国民の皆さまはもちろんですが、ご寄附により支えて下さる皆さまには深いものがあり、改めて御礼申し上げます。また、匿名による寄附者の皆様には、この広報を借りて厚く御礼申し上げます。心を込めて、有難うございます。

さらに、ボランティアやご奉仕活動を賜っております歯科医師会の皆さま、富山老人保健施設の皆さま、学習支援の皆さま、北陸電力青年部の皆さま、大谷こども美術館の皆さま、論語教室の皆さま、ふれあい農園の皆さま、フォスターの皆さま、グラウジーズの皆さま、サンダーバーズの皆さま、カターレの皆さま、各新聞社の皆さま、そして、地域の皆さまをはじめ、お心を注いでいただいております総ての皆さまに、この広報を通して、心より御礼申し上げます。有難うございます。

終わりに

ルンビニ園広報は、今回からホームページにて掲載してまいります。お伝えする内容を豊かなものとし、回数を重ねる毎に進化を遂げるよう努めてまいります。